令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【春岡小学校】

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査の算数「知識・技能」において、全国の平均正答率を上回る。	⇒	タブレット端末を効果的に活用し、ドリルパーク・スタディサプリ等での反復学習に取り組み、基礎基本の定着を図る。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の国語「思考・判断・表現」において、全国の平均正答率を上回る。	⇒	令和4年度は「話す・聞く」「読む」において平均正答率が低かったため、ICTを含めた発表の機会を積極的に設け、表現する力を伸ばす。日々の授業の中で、読解力向上を意識した授業づくりを行う。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒	授業において、課題設定を児童と共に行い、自力解決につなげる。児童の活動を認める機会や称賛する機会を意図的に設定するとともに、振り返りを行うことで学習への意欲向上を目指す。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	国語では、全国を0.7pt上回った。ただ、「敬語」の理解が全国を下回っているため、日常生活の中で使用しながら理解を深める必要があると思われる。算数では、全国を1.6pt下回った。特に「図形」「変化と関係」分野での誤答が多かった。しかし、「数と計算」分野では全国を上回っているものが多いため、苦手分野での知識の定着を図ることで向上が見込めると考える。
思考・判断・表現	国語では、全国を0.2pt下回った。しかし、「書く」0.1pt「読む」2pt上回り、「話す・聞く」分野が課題である。質問の意図をとらえる問題での誤答が多く、「質問を理解する力」を身に付ける必要がある。算数では、全国を2.9pt下回った。特に記述式のものが苦手であり、グラフから分かることや、選択肢から選んだ理由を記述する問題の誤答が多かったので、授業で記述を多く取り入れていく。
主体的に学習に取り組む態度	全国での「課題解決に向けて自分から取り組んだか」という質問では、前向きな回答が92%であり、全国を13.2%と大きく上回った。また、学校が楽しい・幸せな気持ち、などの項目も上回っている。また、ICT活用は「ほぼ毎日」が31.6%であり、全国を3.4%上回り、定着してきている。ICTを活用しながら、上記の苦手分野の克服を図ることが適切であると考える。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

小3	算数の「図形」、国語の「読むこと」の領域に、大きな課題が見られた。しかし、教科への興味関心については、国語・算数・社会・理科のどの教科においても肯定的な回答が市平均を上回っている。無回答率の高さも課題の一つであるが、課題に対して粘り強く取り組む力を身に付ければ、状況は向上していく可能性があると思われる。	小4	同集団の比較では、令和4年度より算数は−1pt程度、国語はほぼ変わらないという結果だった。算数の「図形」「数と計算」に課題が見られ、また。国語に関しては「話すこと・聞くこと」では1pt程度上回っており、「読むこと」についても少しではあるが向上している。国語の授業について「分かる」と回答している率も高かった。
小5	同集団の比較では、令和4年度より算数は−2.7pt、国語は−2.5ptだった。どちらの教科も「知識・技能」に課題が見られた。基礎基本の定着に力を入れる必要がある。理科では、実験結果から情報を整理して分析する問題での回答率が市平均より高かった。	小6	同集団の比較では、令和4年度より算数の「知識・技能」においては+0.4ptだった。また、そのほかの観点ついては、令和4年度と変わらなかった。今年度、基礎基本の定着を図ってきた成果が見られてると考える。また、理科では全ての観点および領域で令和4年度を上回っていた。どの教科でも無回答率が低く、最後まで粘り強く課題に向き合ったことがうかがえる。

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査の算数「知識・技能」において、国語では全国の平均正答率を上回ることはできたものの、目標とした算数では上回ることができなかった。市の学習状況調査でも「知識・技能」に課題が見られた。	C
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の国語「思考・判断・表現」において、全国の平均正答率にあと少しという結果だった。しかし、「読むこと」「話す・聞く」においては向上している様子が見られる。	B
主体的に学習に取り組む態度	課題解決に自ら取り組んだか、という質問に対しては、全国学力・学習状況調査での肯定的な回答は92%、さいたま市学習状況調査での該当項目では6年91.4%、5年84.2%となり、概ね達成したと考える。	B

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	学年によって差はあるものの、どの教科でも「知識・技能」の観点に関する問題に課題が見られるため、日頃の授業の中で反復練習や基礎基本の定着に取り組む活動を取り入れていく。ICTの使用が日常的になっている本校では、ドリルパークだけではなく児童が関心をもって取り組むことができるような教材の開発を目指していく。
思考・判断・表現	国語では、敬語の使い方や文章の意味をとらえることについて課題が見られる。また、算数では記述問題での誤答が多く、複数の資料の説明を理解し、それをもとに考えることに課題がある。授業の中で、ある程度のまとまった文章に触れ、その内容をしっかりとらえる学習をすることで、国語だけでなく算数等の向上も図っていく。
主体的に学習に取り組む態度	現在の状態を、次年度以降も維持し、さらに向上を目指していく。自己肯定感を高め、課題に対し粘り強く取り組む力を伸ばすために、授業ごとの振り返りや学習活動の記録を蓄積し、客観的に自分の伸びを実感できるようにしていく。ICTを活用することで、より効果的な取り組みができるようにする。